



## マレーシアで 電車に乗ってみた

### 1. はじめに

経済発展著しいマレーシアの首都クアラルンプール。世界各国からビジネスマンや観光客が訪れるこの地では、鉄道網の整備が年々進んでいます。本稿では、そんなクアラルンプールの電車事情を紹介します。

### 2. 主要路線

#### (1) KLIA Ekspres

KLIAとは、クアラルンプール国際空港の略称。KLIA Ekspresは、空港とターミナル駅「KLセントラル」(KL Sentral)を約30分で結ぶ特急列車(東京で言えば成田エクスプレス)です。乗車賃は35リングギット(約1000円)と少々張りますが、車内は広々としており、無料WiFiも利用可能。ちなみに、“Ekspres”(Express)や“Sentral”(Central)は誤字ではなく、マレー英語です(写真1)。

KLセントラルは、その名の通り、日本で言えば「東京駅」に当たるクアラルンプールの中心です。巨大な駅ビルが併設されており、ショッピングや食事を楽しむことができます。故・黒川紀章氏が設計した駅舎には、たくさんの日本語表記が(写真2)。マレー



【写真1】 LRTのKLセントラル駅



【写真2】 KLセントラル駅構内の日本語表記

シア航空の利用者は、出国時に駅構内にあるマレーシア航空のカウンターでスーツケースを預けることができます。KLセントラルで手放した荷物は帰国時に受け取ります。出国日当日も身軽に過ごすことができ非常に便利です。

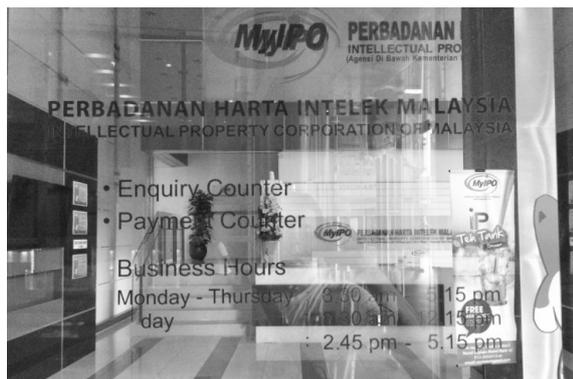
#### (2) LRT

クアラルンプール市民の足と言えるのがLRT。Myrapidという会社が運営しています。LRTは、KLセントラルを中心に市内の要所を結んでおり、クアラルンプールを訪れたら必ずお世話になる路線です。

例えば、マレーシア特許庁(MyIPO)は、KLセントラルの隣駅の駅ビルに入っています(写真3)。観光地として有名なツインタワー、主要なショッピングモールにはLRTだけでアクセス可能です。一方、特許・法律事務所の中には、郊外に居を構えているところもあります。郊外のオフィスを訪問する際は、タクシーが不可欠。最寄り駅でタクシーが捕まらない可能性もありますので、KLセントラルからタクシーに乗っても良いでしょう。

#### (3) KTMコミュータ

KTMコミュータは、KLセントラルと郊外を結ぶ中距離列車。シンガポールやタイとも繋がるマレー鉄道の一 구간を走っています。



【写真3】 MyIPOのエントランス

クアラルンプールは渋滞も深刻。タクシーは時間が読めないため、郊外へのアクセスにはKTM通勤車が重宝します。

### 3. 特徴

#### (1) 運行の精度

マレーシアの電車には時刻表がありません。時刻表の代わりに時間帯毎の運行間隔が決められています（例：9時→5分毎、15時→10分毎）。駅の電光掲示板には、発車予定時刻の代わりに次の電車が到着するまでの残り時間が分単位で表示されます。ちなみに、到着時刻が迫ってくると、秒単位で表示する程のこだわりようです（写真4）。運行は意外にも正確。ラッシュアワーの遅延が常態化している東京より正確かもしれません。但し、5分や10分の遅延で車掌さんが謝罪することはありませんが…。

#### (2) 運賃

LRTの初乗りは約1.2リンギット（約40円）。KTM通勤車も30分乗って40円程度。日本では考えられない安さです。

LRTに乗車するには、トークンを購入するか、ICカードにチャージする必要があります。個人的にはICカードがオススメです。初回購入時に手数料がかかりますが、1週間程度の滞在なら20リンギット（約600円）もチャージすれば十分でしょう。なお、LRTとKTM通勤車は運営母体が異なるため、LRT用のICカードでKTM通勤車に



【写真4】 LRTのプラットフォームの電光掲示板



【写真5】 KTM通勤車の女性専用車両（車両上部にLadies onlyの文字が）

乗ることはできません。

#### (3) 車内

どの路線も車内は快適です。女性専用車両（写真5）や優先席の整備はむしろ日本より進んでいるほど。市民の生活に根付いていることが伺い知れます。ラッシュアワーには混雑しますが、身動きが取れないレベルではありません。

### 4. むすび

クアラルンプール市内の郊外の駅で降りると、発展途上国さながらの未整備な状況が広がっています。一方、市内のあちこちで開発が進んでおり、電車の新設も検討されているようです。今後、クアラルンプールの電車はますます便利になっていくことでしょう。

#### 著者

##### 木本大介（きもと・だいすけ）

日本弁理士、GIP東京所属。1977年神奈川県生まれ。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業知財部3年、特許事務所7年の経験を経て2013年7月より現職。モットーは、「正しいモノより楽しいモノを」。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>